

<施工図システム>

1. 初期設定 梁継手符号入力の設定を追加
2. 初期設定 SCSS-H97 継手対応
3. 基準設定 C 鋼とチャンネル材の梁配置で「面合わせ」「芯合わせ」で選択できる設定を追加
4. ベース作成 ベースパック V シリーズ H 形鋼用、円形鋼管対応
5. 梁の配置 寸法線色設定追加
6. デッキ受け 設定追加(FB・PL 対応、向きの設定)
7. IFC 出力修正
8. メッキ設定 メッキ設定で指定した梁に付くボルトの対応
9. 一般図出力 寸法線間隔を変更機能を追加
10. 裏当て 通しダイアの裏当てを既製品に対応
11. 梁単品図 出力修正
12. 原寸型紙 ボルトの+マークの色設定を追加
13. ガセット確認図 耐風梁のリブと軸ブレスの押さえリブの合番を表示
14. 梁リスト 本柱(H 鋼)の対応
15. 梁リスト 合番順設定追加
16. クレーンゲーター 始点・終点の間に入る柱の振れ止め対応
17. 材料リスト 製品検査表に関する修正
18. 材料リスト プレートリスト：異型ダイアの場合に"(型切)"表記追加
19. 不具合の修正

<胴縁システム>

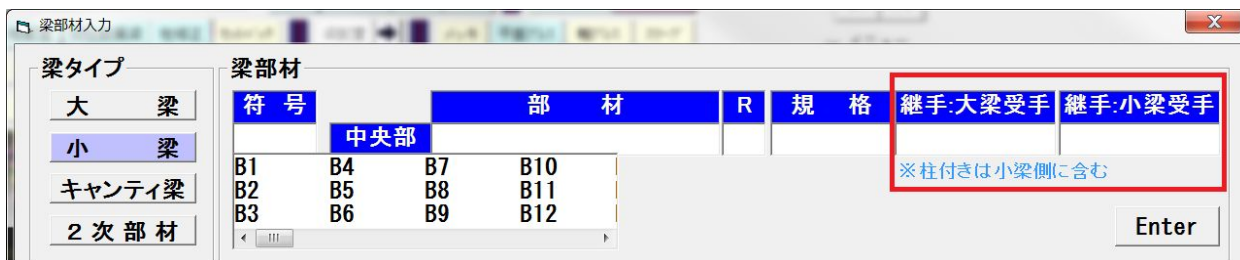
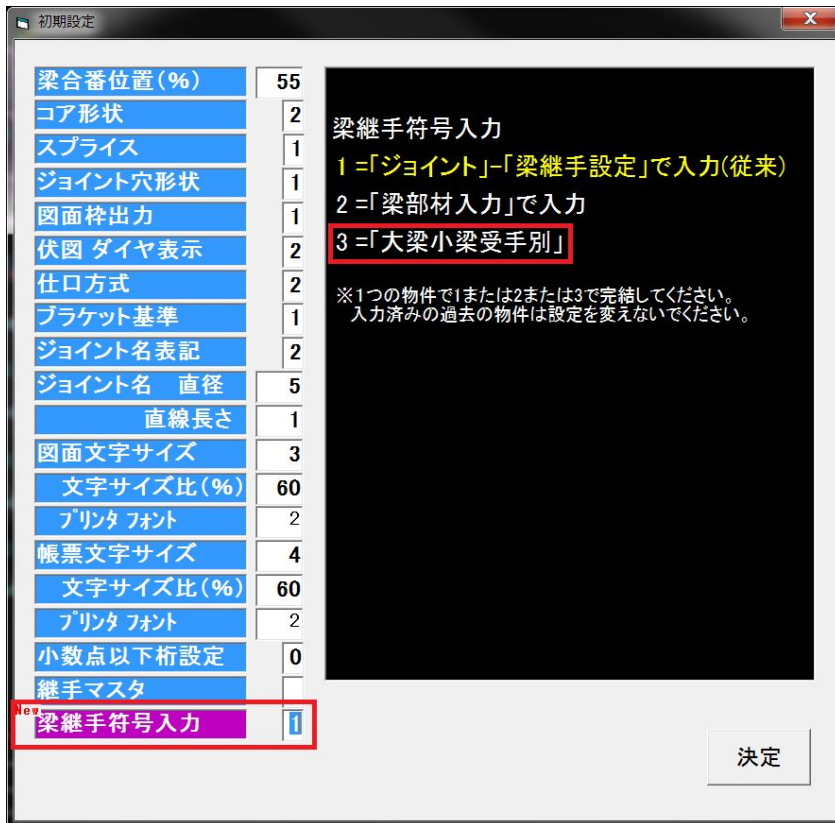
1. 図面読込 キープランの DXF 出力対応
2. 分割連結 分割時も取合優先を選択できるよう対応
3. データ変換 ピース符号選択を無しにできるよう対応
4. 抱き合わせ・組物の名称の文字数追加
5. ピース自動配置 CC 材は刃側に配置
6. 集計表 胴縁に付くマークの数を表示
7. 胴縁ピースと軸組ピースを色分け表示
8. 図面出力 胴縁を工区の色で作図
9. データ復帰 ピースマスターを工事別で持つよう対応
10. 編集画面右下に通り名の後ろに方向を表示
11. 不具合の修正

施工図システム

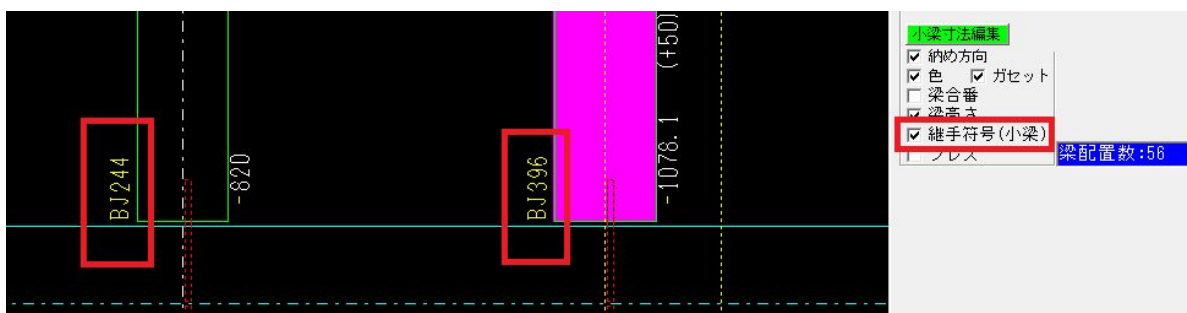
1. 初期設定 梁継手符号入力の設定を追加

まず、本設定は物件の入力をする前に設定をし、物件入力が終わるまで変更をしないようお願いいたします。

<基本データ>-<初期設定>-<梁継手符号入力>-『3=「大梁小梁受手別」』を選択すると、受ける梁が大梁もしくは小梁(柱付きを含む)かによって継手符号をあらかじめ設定することができます。



登録した継手は梁の配置画面上に表示されます。不要な場合は画面右下のチェックボックスを外してください。



また、<ジョイント>-<梁継手設定>で継手符号の変更も行えますが配置済みの梁は適用されません。

2. 初期設定 SCSS-H97 継手対応

<基本データ>-<初期設定>-<継手マスタ>-<剛接合マスタ>に SCSS-H97 のマスタを追加しました。

3. 基準設定 C鋼とチャンネル材の梁配置で「面合わせ」「芯合わせ」で選択できる設定を追加

設定名	値	単位
剛接部クリア	10	
ピン接部クリア	10	
コラム柱、H柱ピン接部クリア	15	
間柱ジョイントクリア	15	
コラム柱、パイプ柱ジョイントクリア	0	
H柱ジョイントクリア	0	
ダイヤ耳	25	
コラム柱形状設定	7	
H柱形状設定	0	
コア形状指定階	2SL	
物件タイプ	1	
現場溶接ルートギャップ	0	
通しダイヤの場合		
片側内ダイヤの場合		
上下内ダイヤの場合		
ボルト基準	0	
剛接ジョイントの合わせ	0	
"C", "[の合わせ(梁配置)	0	

4. ベース作成 ベースパック V シリーズ H 形鋼用、円形鋼管対応

ベースパック H 形鋼用 V2/V2Q/V3/VS、円形鋼管用 V2/V3 のマスタを追加しました。

ベース入力

符号 : ベースサイズ
 C1 : ^-スハック H1515-10V2
 C7 :

柱部材サイズ : H-100x50x5x7

ベースタイプ 19 ベース名 H1515-10V2

端カット 0
 左側 125
 右側 125
 上側 180
 下側 180
 板厚 28
 ボルト数 4
 ボルト長 650
 ボルト径 27
 穴径 45

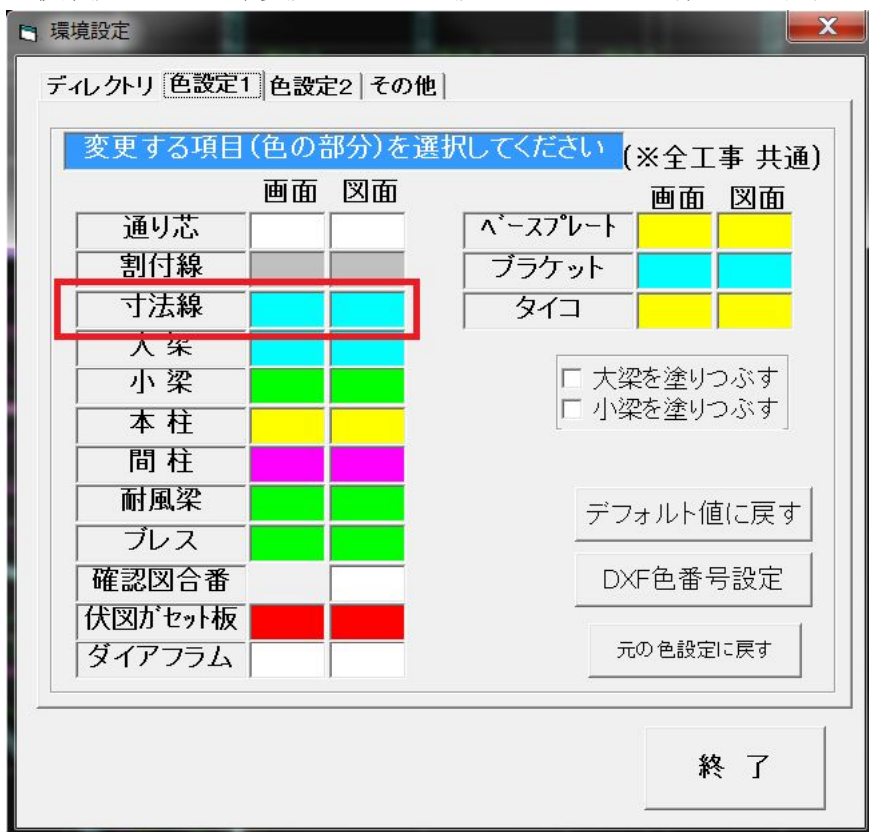
削除

No	X距離	Y距離
1	75	130
2	-75	130
3	75	-130
4	-75	-130

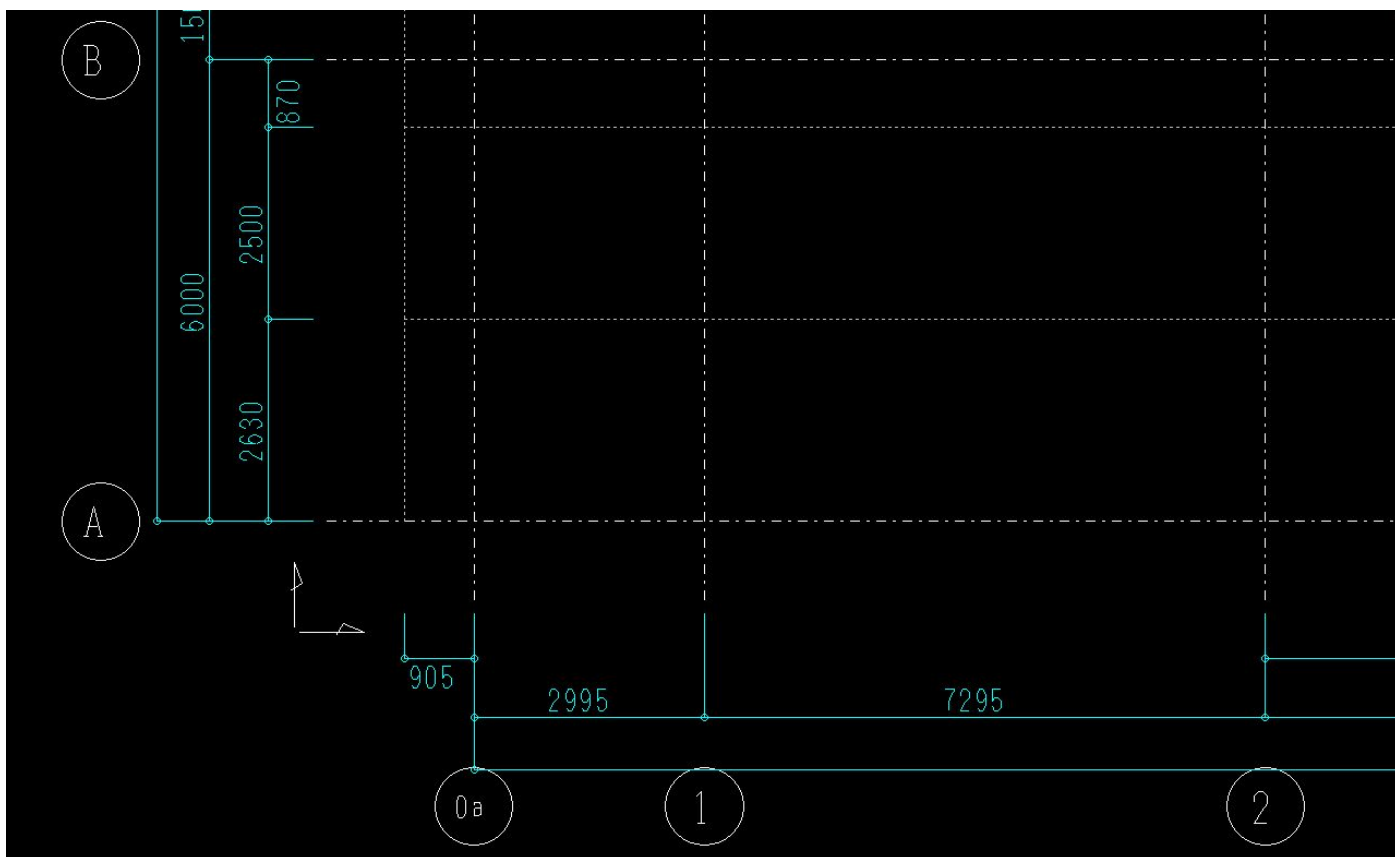
ベース 複写 Enter 終了

5. 梁の配置 寸法線色設定追加

<初期設定> - <環境設定> - <色設定1> - <寸法線>にて画面・図面の寸法線の色が変更できます。



<寸法線を青に設定した場合>



6. デッキ受け 設定追加 (FB・PL 対応、向きの設定)

<嵩上げ材> - <デッキ受け 個別配置>

①部材入力で FB、PL に対応しました。「L-幅 x 背 x 厚」「FB-厚 x 幅」を直接、値を入力してください。

個別配置

部材を入力して下さい

※アングルは L-幅x背x厚
※FB, PL は FB-厚x幅

部材

L-25x25x3
L-30x30x3
L-40x40x3
L-40x40x5

②アングル部材を選択時、向きを選択できるよう対応しました。

個別配置

デッキ受けを取り付ける向きを選択して下さい

部材 L-65x65x6

材質 SS400

向き 高さ 0

始点距離

終点距離

再計算 Enter

デッキ受けの向き

1=左面 2=右面 3=左面 4=右面

7. IFC 出力修正

<IFC エクスポート>を選択すると IFC ファイルを出力されます。

出力場所は C:\¥シグマ F1¥施工図¥物件¥番号フォルダ¥作成時の日付_物件名.ifc です。

8. メッキ設定 メッキ設定で指定した梁に付くボルトの対応

メッキ指定範囲内の継手のボルトを自動でメッキになるよう対応しました。継手基準図、ボルトリスト、積算変換に反映されます。

<継手基準図作成画面>

符号	端部材	中央部材	種類	メッキ	配置
GJ1	H -350x175x7x11x13	H -300x150x6.5x9x13	大梁	○	配置済
GJ2	BH-350x175x9x12	H -300x150x6.5x9x13	大梁	○	配置済
GJ3	H -300x150x6.5x9x13	H -300x150x6.5x9x13	大梁	○	配置済
GJ5	H -198x99x4.5x7x8	H -198x99x4.5x7x8	大梁	○	配置済
GJ3	H -300x150x6.5x9x13	H -300x150x6.5x9x13	大梁	○	配置済
GJ4	BH-300x150x9x9	H -300x150x6.5x9x13	大梁	○	配置済
BJ1	H -198x99x4.5x7x8	H -198x99x4.5x7x8	小梁	○	配置済

<ボルトリスト 各種>

[ボルト使用箇所明細書] <集計表>				承認	作成	
搬入店		工区		/	/	
工事名						
ボルト種類	ボルト明細			ボルト本数		
	ボルト径	×	長さ	使用本数	ロス率	発注本数
HTB	M 16	×	50	1	103	10
HTB F8T	M 16	×	45	80	103	90

9. 一般図出力 寸法線間隔を変更機能を追加

<図面レイアウト>-<基本データ>-「寸法線間隔」にて変更が行なえます。入力値は最小値 5、最大値 10 となります。

図面レイアウト

基本データ

アンカーレイアウト

伏図 レイアウト

軸図 レイアウト

裏軸 設定

自社名設定

終了

柱面・柱芯 寸法線	1	アンカープラン・伏図 [有=1、無=2、柱面=3、柱芯=4]
梁寸法表記	1	伏図 [有=1、無=2]
合番表記	2	伏図・軸図 [合番=1、設計マーク=2] ※合番の場合は詳細図の合番設定を先に行ってください <input checked="" type="checkbox"/> 伏図に関しては両方作成する
梁芯線	1	伏図 [有=1、無=2] <input checked="" type="radio"/> 一点鎖線 <input type="radio"/> 破線
修正した梁の斜線	2	伏図 [有=1、無=2]
スプライス	1	伏図・軸図 [有=1、無=2]
軸図 ガセット合番	2	[表記する=1、表記しない=2] <small>(軸図の間柱、耐風梁ガセット合番表記 ※X,Y軸両方に出力する間柱は、受け梁が見える軸面のみ合番表記します)</small>
出力用紙サイズ	1	[A1=1、A2=2] (アンカープラン・伏図・軸図の用紙サイズ)
寸法線間隔	アンカープラン 6 伏図 6 軸図 7	[最小値=5、最大値=10]
玉止め比率 (%)	25	
柱の部材厚み表示	1	軸図 [有=1、無=2]
間柱リブ板表示	1	軸図 [有=1、無=2]
New メッキ指示	2	伏図・軸図 [有=1、無=2]

グループ化する

レイヤ分けする

レイヤ名を漢字にする

レイヤ名を数字にする

Enter

変更要素の色を赤へ変更する(伏図)

変更前の図面の日付を設定してください。

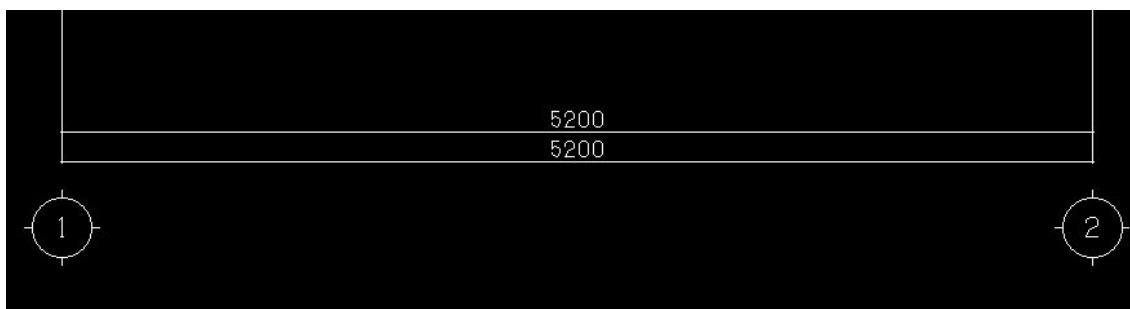
2018年 5月 14日 11時 48分

図面作成年月日を設定する(工事ごと)

アンカープラン	2018/04/05
伏図	2018/04/05
軸図	2018/04/05

※基本データの設定は全工事共通です

<設定値：5の場合>



<設定値：10の場合>



10. 裏当て 通しダイアの裏当てを既製品に対応

<基本データ>-<基準設定>-<溶接・裏当て設定>にて、通しダイアまたは柱ジョイント部の裏当てのサイズやタイプを選択できます。

内ダイヤまたは範囲外のサイズのコラムの通しダイヤには、<柱詳細>-<初期設定>-「裏当て厚み」「裏当て幅」のサイズが適用されます。

基準設定

メニュー

- ジョイント空間
- ブラケット長
- ハンチ設定
- コラムR逃げ
- 溶接縮み
- 溶接・裏当て設定**
- 斜め梁
- 規格編集
- 柱初期設定
- ガセット初期設定
- 終了

溶接・裏当て設定

エンドタブタイプ
1: スチールタブ
2: フラックスタブ

エンドタブタイプ

スチールタブ寸法

フラックスタブ寸法

通しダイアの裏当て			柱ジョイントの裏当て		
B柱サイズ	タイプ	部材サイズ	B柱サイズ	タイプ	部材サイズ
13 ~ 100	口型	FB-9x25	13 ~ 100	口型	FB-9x50
125 ~ 175	口型	FB-9x25	125 ~ 175	口型	FB-9x50
200 ~ 1200	コ型	FB-9x25	200 ~ 1200	コ型	FB-9x50

板厚 mm以下のB柱は裏当てを使用しない。

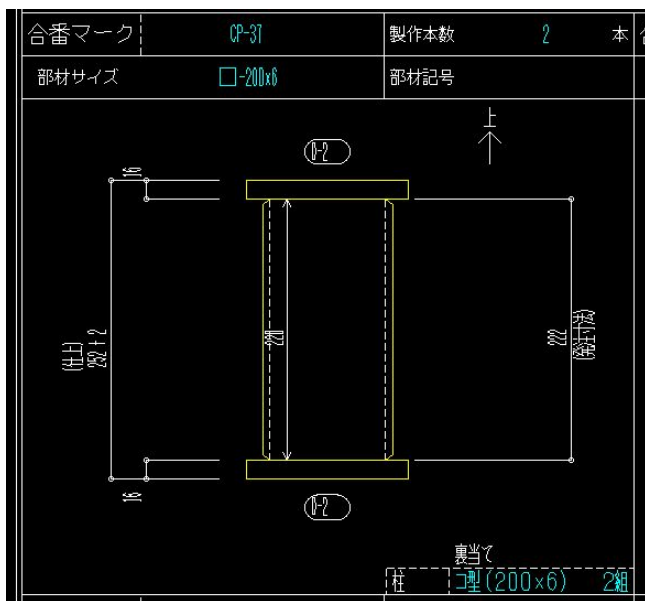
Enter

柱単品図、サイコロ部品展開図、材料リストには「柱裏当て(タイプ)」と表記されます。1箇所辺り、□型は1枚、コ型は2枚、L型は4枚入ります。

<柱単品> シャフト部分のみの数量です。柱ジョイント部はGL側の柱単品図の部品構成表に含みます。

部材名	サイズ	長さ	数量	重量
BK-77	H-300x150	550	1	20.2
BK-78	H-300x150	552/529	1	20.3
CP-42	□-300x9	314	1	66.7
2C3-8	□-300x9	5106	1	411.6
C3	パイプφ3040R	520/520	1	85
デッキ受け	FB-6x50	40	1	.1
柱裏当て(コ型)	FB-9x25	300x9	4	4

<サイコロ部品展開図> サイコロの中のものみの数量です。

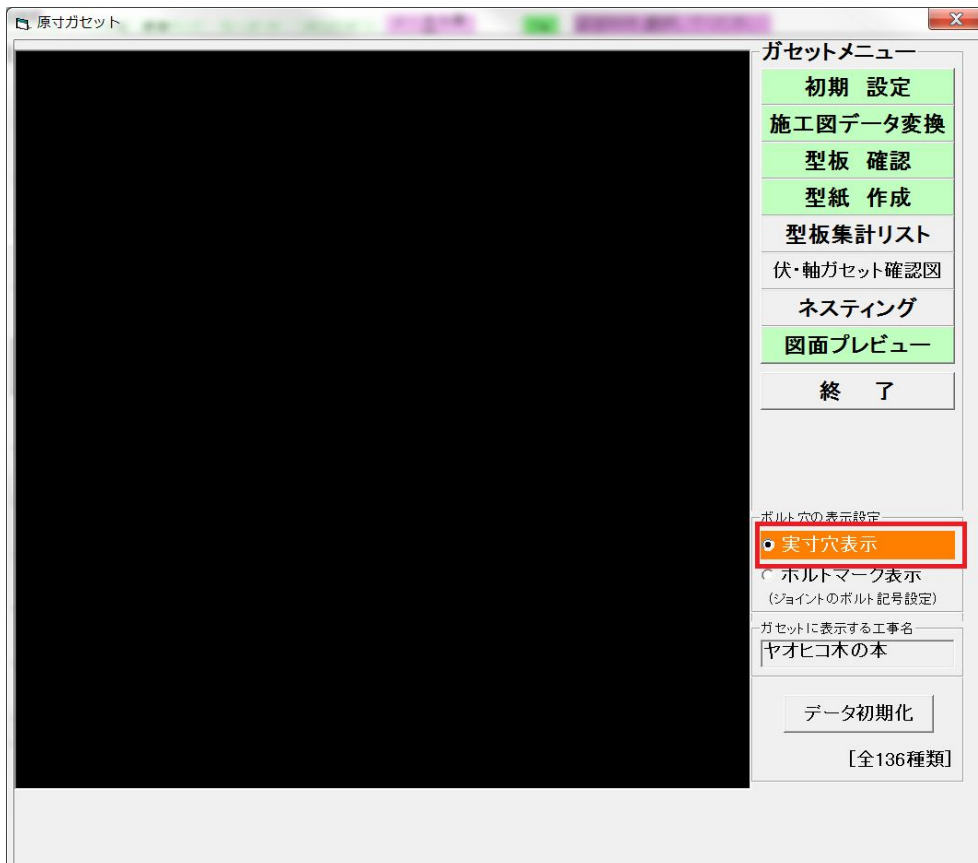
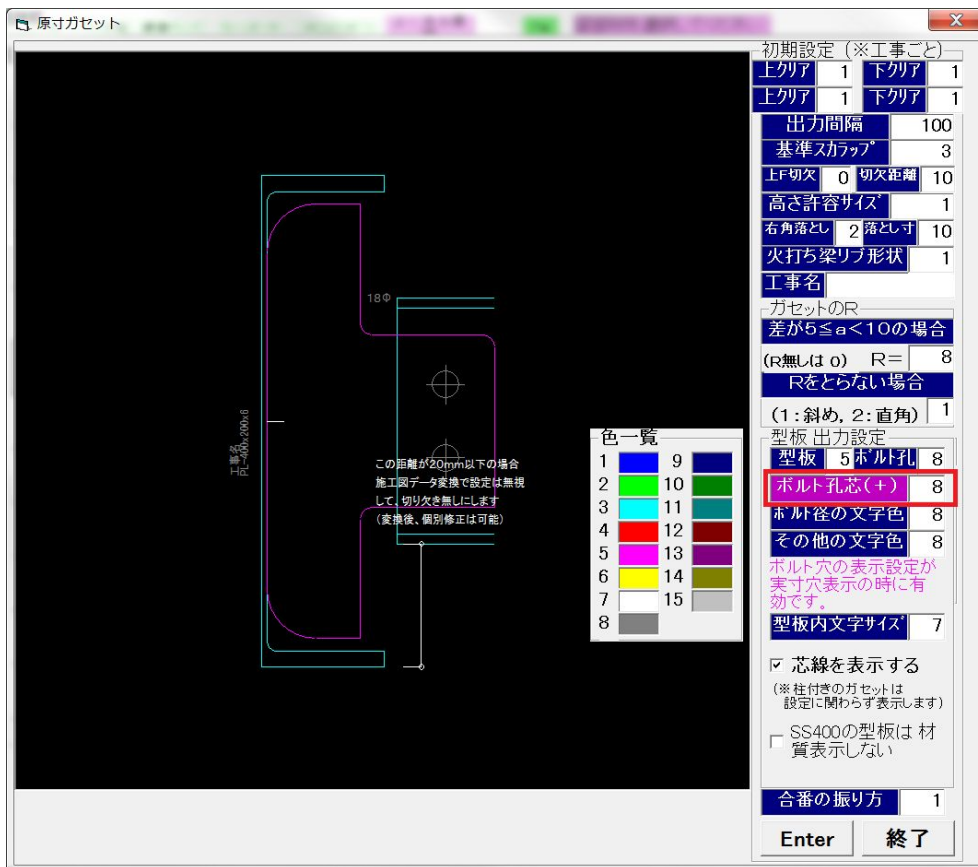


<材料リスト プレート加工表>

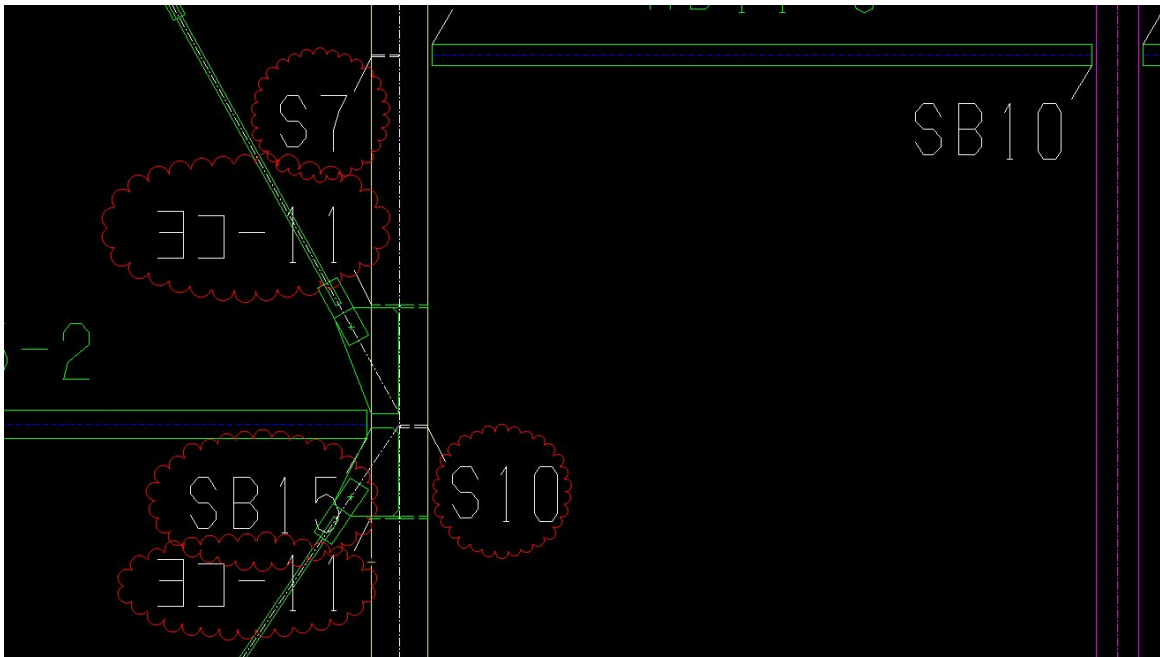
プレート加工伝票 (裏当て)													作成				
※形状・ポンチ孔・キリ孔・ショット・開先・曲げの欄は○印を記入すること																	
工事名					工区名		材質			発行日							
AU							SMA90B			平成30年05月15日							
No	部品記号	板厚	幅	長さ	合計枚数	PL納入日		形状			孔数	孔径	ショット有	開先有	曲げ有	重量(100%)	
						／	／	シャイ寸	ガス寸	ガス異							
42	柱裏当てコ型(200x6)	9	25		22	／	／										15.4

12. 原寸型紙 ボルトの+マークの色設定を追加

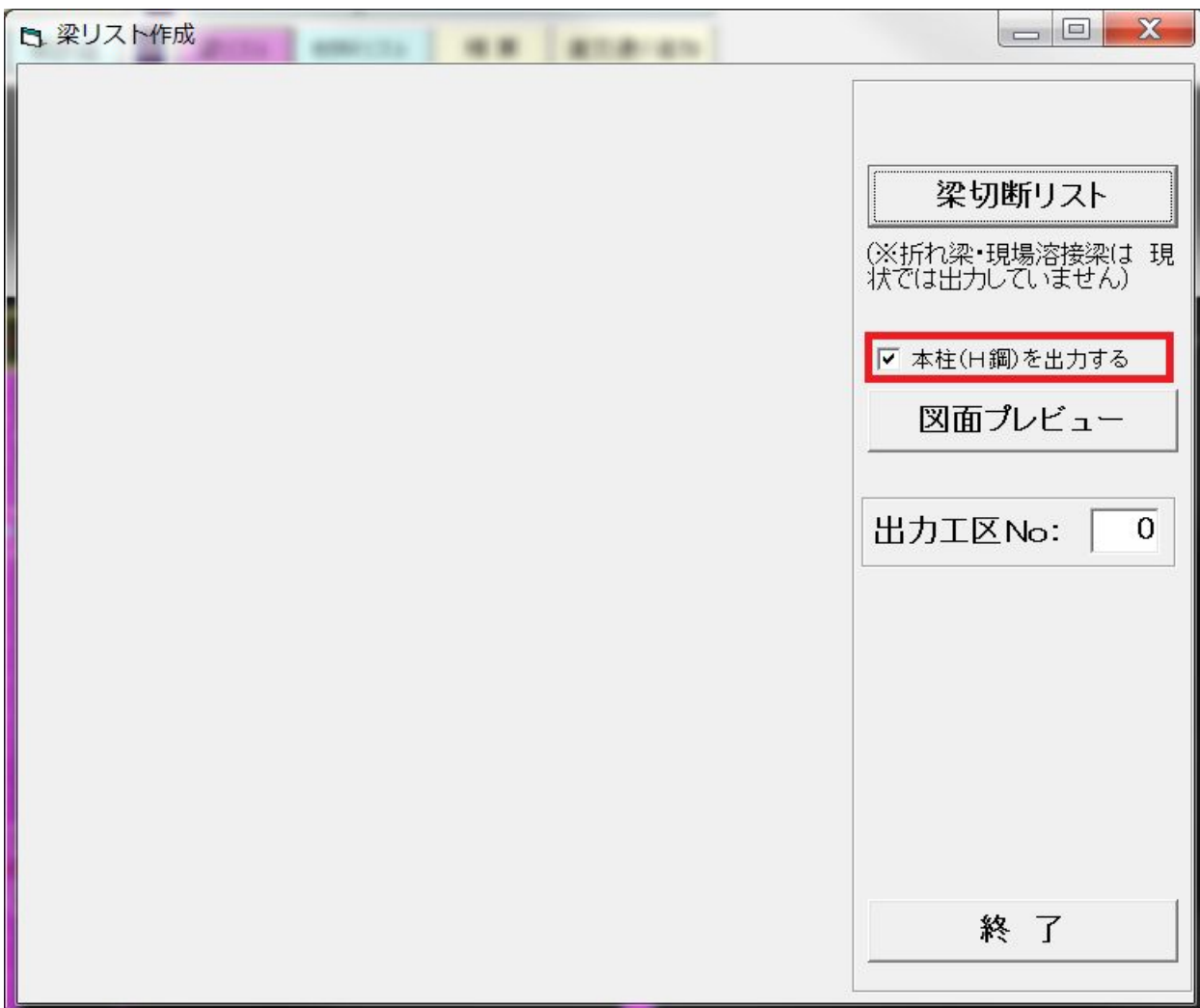
＜柱詳細＞－＜原寸型紙作成＞－＜初期設定＞－＜型板出力設定＞－「ボルト孔芯(+)」
ボルト穴の表示設定が、実寸穴表示を選択時のみ有効です。



13. ガセット確認図 耐風梁のリブと軸ブレスの押さえリブの合番を表示



14. 梁リスト 本柱(H鋼)の対応



15. 梁リスト 合番順設定追加

リストの出力順を長さ、合番順に選択できるよう対応しました。

梁リスト作成

穴開切断リスト 出力設定

桁数(横) 1 - 桁数(縦) 1

開始ページ 1 - 終了ページ 9

(全 0 ページ)

出力先: 1
(1=DXF,
2=ジャストイン印刷 [A4])

切りから穴までの寸法: 1
(1=表示しない, 2=表示する)

梁切断リスト出力順: 1
(1=長さ順, 2=合番順)

DXF作成先
C:\シグマF1\施工図\物件¥5¥

キャンセル 作成 開始

終了

梁切断リスト

(※折れ梁・現場溶接梁は 現
状では出力していません)

間柱は開先をとらない
 本柱(H鋼)を出力する

図面プレビュー

16. クレーンゲーター 始点・終点の間に入る柱の振れ止め対応

始点・終点の間に入る柱の振れ止めは、バージョンアップ後に配置したクレーンゲータに適用されます。またリブ位置や、キャンティ梁のリブ厚の指定もできるよう対応しました。

仕口リスト、梁切断リスト、柱詳細・単品図面にボルト孔が作図されます。


<設定>

部材符号	
レール部材	
レール材質	
先端からの距離	75
木口P.L厚み	9
転び止めP.L厚み	9
クリア(片側)	0
転び止めP.L位置	75
リブ位置	端部 3 中間 1
振れ止めP.L厚み	0
端の場合	1
梁芯からの距離	0
高さ調整クリア	0
ライナーP.L厚み	0 (無い場合は0)
キャンティ梁リブ厚み	1


<下フランジ>		<木口P.L>	
継手パターン	平行2列	継手パターン	平行2列
ボルト径	20	ボルト径	20
孔径	22	孔径	22
孔列	1	孔列	2
端明	55	端明	40
孔ピッチ	0	孔ピッチ	120
外ピッチ	200	外ピッチ	200
内ピッチ	0	内ピッチ	0
ボルト種類	TCボルト	ボルト種類	TCボルト

Enter 決定


1. 右(上)




2. 左(下)



3. 内側

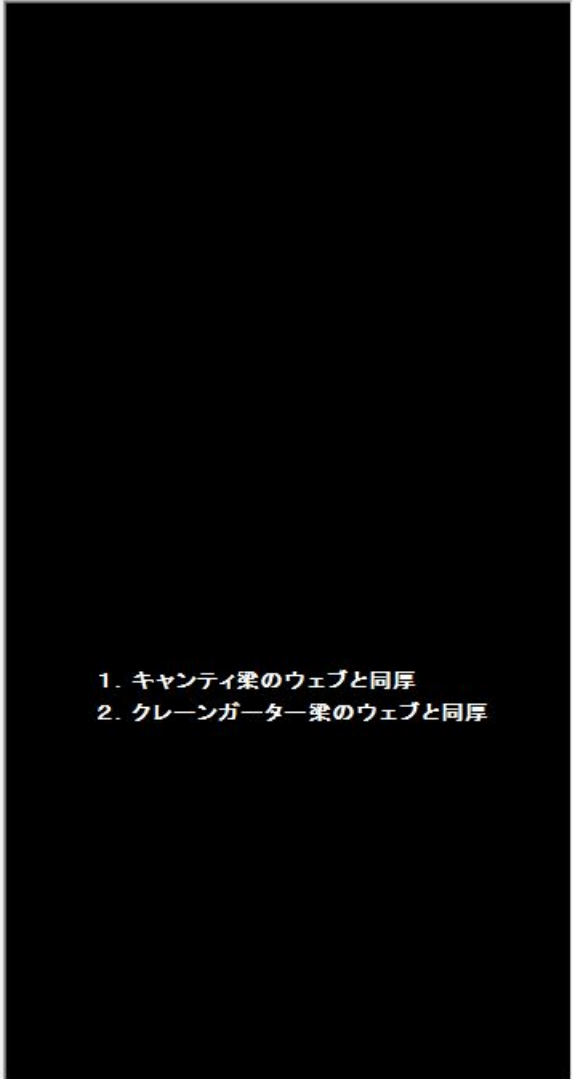


4. 外側



部材符号	
レール部材	
レール材質	
先端からの距離	75
木口PL厚み	9
転び止めPL厚み	9
クリア(片側)	0
転び止めPL位置	75
リブ位置	端部 <input type="text" value="3"/> 中間 <input type="text" value="1"/>
振れ止めPL厚み	0
端の場合	1
梁芯からの距離	0
高さ調整クリア	0
ライナーPL厚み	0 (無い場合は0)
キャンティ梁リブ厚み	<input type="text" value="↑"/>

<トフランジ>		<木口PL>	
継手パターン	平行2列	継手パターン	平行2列
ボルト径	20	ボルト径	20
孔径	22	孔径	22
孔列	1	孔列	2
端明	55	端明	40
孔ピッチ	0	孔ピッチ	120
外ピッチ	200	外ピッチ	200
内ピッチ	0	内ピッチ	0
ボルト種類	TCボルト	ボルト種類	TCボルト



1. キャンティ梁のウェブと同厚
2. クレーンガーター梁のウェブと同厚

17. 材料リスト 製品検査表に関する修正

- ①柱、梁共通：リストの「適・否」の表記を「適」のみに変更、丸を外しました。
- ②梁：「許容差」の表記を「管理許容差」に変更しました。
- ③柱：工区分けした際に一括で出力できるよう変更しました。

製品検査成績表 (柱) 工事名: _____ No. _____													
製品マーク		設計値		誤差		設計値		誤差		設計値		誤差	
検査項目	方向	設計値	誤差	設計値	誤差	設計値	誤差	設計値	誤差	設計値	誤差	設計値	誤差
柱の長さ	H												
社 口 角 度		適		適		適		適		適		適	
曲 が り		適		適		適		適		適		適	
部 材 寸 法		適		適		適		適		適		適	
摩 擦 面 状 態		適		適		適		適		適		適	
取 合 継 手		適		適		適		適		適		適	
溶 接 外 観		適		適		適		適		適		適	
溶 接 割 れ		適		適		適		適		適		適	
アンダーカット		適		適		適		適		適		適	
突き合わせ継手の食い違い		適		適		適		適		適		適	
仕 口 の ず れ		適		適		適		適		適		適	
判 定		合・否		合・否		合・否		合・否		合・否		合・否	
検 査 日		/		/		/		/		/		/	
検 査 員													

※は勾配長さ

18. 材料リスト プレートリスト：異型ダイアの場合に“(型切)”表記追加

プレート加工伝票 (ダイヤフラム)													作成			
※形状・ポンチ孔・キリ孔・ショット・開先・曲げの欄は○印を記入すること																
工 事 名						工 区 名		材 質			発 行 日					
								SN490C								
No	部品記号	板厚	幅	長さ	合計枚数	PL納入日		形 状			孔 数	孔 径	ショット	開先	曲 げ	重 量 (100%)
						/	/	シャ	ガス	ガス						
	300-363-22N (型切)	22	363	300	1	/	/	寸								18.8
	300-363-32 (型切)	32	363	300	1											27.4

19. 不具合の修正

下記の不具合を修正しました。

<図面読込>

- ・DXFの要素数が32767を越えると割付線を追加できない不具合。

<スパン入力>

- ・スパン距離が0の時にメッセージを表示。

<基準設定>

- ・コラムR逃げダイア設定（外面合わせ）：上下の柱サイズが違う時に設定が有効にならない不具合。

<ジョイント>

- ・梁部材入力で継手符号を入力する場合に継手符号が重複して登録される不具合。
- ・小梁継手入力で、間柱の場合は「2面せん断」を選択不可に変更。
- ・柱ジョイント入力で、途中階コアに関する不具合。

<継手基準図>

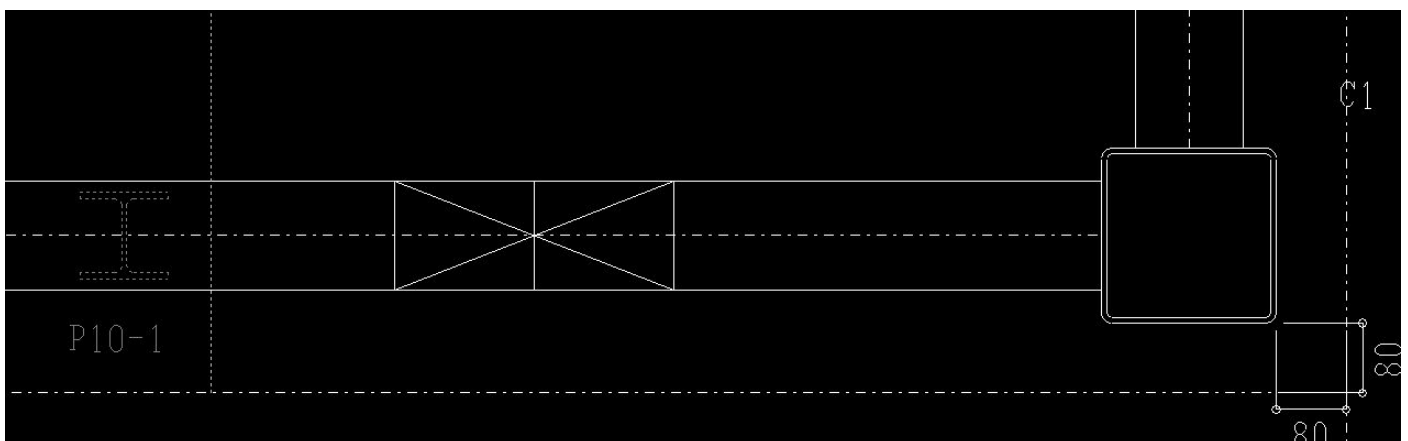
- ・継手設定でメッキ有りの場合、継手図面で個所数がゼロ表示になる不具合。
- ・同じ部材サイズで材質が違う継手の作図になる不具合。
- ・小梁とブレスが同じ継手記号で同じ部材の場合に箇所数が二重で表示される不具合。

<柱配置>

- ・1柱に部材入力の無い柱をペント柱として配置した場合、画面にベースが表示される不具合。

<メッキ設定>

- ・メッキ指定の指定した階より上階の柱がメッキになる不具合。
- ・画面の表示色をスプライスは梁と同色、間柱は灰色にしました。



<梁の配置>

- ・斜め梁に取り付く溶接梁の不具合。
- ・梁貫通時の梁修正画面での不具合。
- ・斜め通りに配置した柱に取合う梁の梁芯ずれ表示が正しくでない不具合。
- ・斜め通り上の柱・梁に関する火打ち梁、折板受け、柱詳細図読み込み不具合。

<勾配計算>

- ・直交梁につく斜め梁の高さ計算についての不具合の修正。

<母屋配置>

- ・母屋範囲が重複した場合に梁単品図に母屋ピースがつかない不具合。

<プレス>

- ・集計表の重量を RB-50 まで計算するよう変更。
- ・塗装設定でメッキ以外の色を指定した場合、同じ合番を複数行出力する不具合。
- ・終了後の集計画面が小さくなる不具合。

《平面プレス》

- ・プレス初期設定で一般図が設計マークの時にメッキ表示の位置がおかしい不具合を修正。
- ・ポイント基準の名称「通り芯」を「割付芯」に変更。
- ・ポイント基準を割付芯にした時に梁芯になってしまう不具合。
- ・細長い平行四辺形のスパンに正しく配置できない不具合。
- ・伏図で右下がりの斜め梁にプレスを配置した場合に梁詳細図に作図されない不具合。

《軸プレス》

- ・ガセット方杖の集計時の角度判定を厳しくしました。
- ・パイププレス、1面せん断の場合に差込プレートの厚みがガセットと同じになる不具合。ボルトリストの母厚とプレート厚が逆になっていました。

<一般図>

- ・溶接梁のメッキ指示を表記するよう修正。

《アンカープラン図》

- ・図面文字サイズが 4mm 以上のときに寸法文字が重なる不具合。

《伏図》

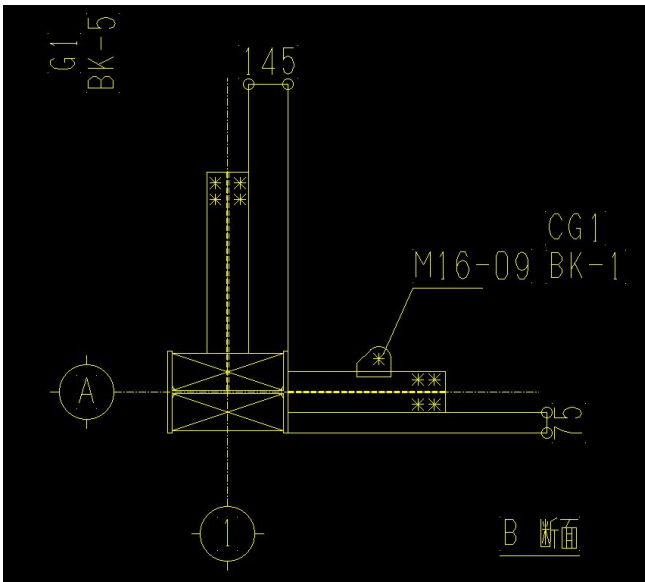
- ・梁高さ表記"(0)"の場合は出さないよう変更。
- ・斜め通りだけに間柱を配置した時、部材リストにでない不具合。
- ・梁の寄りを表示するよう変更。

《軸図》

- ・直交通りの回転のある柱で途中から柱部材が変わる場合の不具合。
- ・斜め柱に付く剛接梁のスプライスを作図しない不具合。
- ・斜め通りの軸図に既成品コアを表示するよう修正。
- ・剛接ジョイントの合わせを芯合わせにした場合のペント柱の座標計算の修正。
- ・間柱に付く耐風梁リブ(縦使い)の作図。
- ・耐風梁の厚み線を重なって作図する不具合。
- ・セットバックの作図の修正。
- ・スリーブの寸法の表記位置の修正。

<柱詳細図・単品図>

- ・途中階コアの柱の胴縁ピースの作図位置がずれる不具合を修正。
- ・柱データ読込時、メッキの有無で仕口合番を分けるよう変更。(新規物件及び仕口合番の初期化後に有効。)
- ・4つ孔のピース(縦胴縁)が柱シャフト部に付く場合のピースの作図。
- ・セクション断面図、H柱の内ダイアの溶接廻しを取って作図するよう修正。



- ・耐風梁ガセットの引出線がガセットからはみ出さないよう修正。
- ・初期設定の出力小数点以下設定が反映されない不具合。
- ・溝形鋼で横使いの小梁の高さ寸法線が小梁の芯で出していたのを、ガセット面になるよう修正。
- ・レイアウトでY立面を移動した時の階基準線の長さを修正。
- ・最上階の階基準線を2重に作図していた不具合。
- ・梁貫通時のスカラップの表記の修正。

<間柱単品図>

- ・角Pで下がベース・上が挟み込みガセットの時の寸法線の修正。
- ・メッキ指定していない間柱の図面も「全メッキ」の表記が出る不具合。

<原寸型紙>

- ・異形ダイアに付くBH（斜め梁）のフランジの長さが正しく出ない不具合。
- ・斜めガセット、切り欠きのチェックを追加。切り欠き有りの継手で母材と小梁のサイズが同じ場合は切り欠き無しにします。
- ・節ごとに工区分けした場合、リブの部位が柱になる不具合。
- ・セットバック設定階の仕口の原寸がハンチにならない不具合。

<ガセット確認図>

- ・図面番号が正しく出ない不具合の修正。

<仕口リスト>

- ・既製品コアに付く仕口の合番が同じ仕口で別になる不具合。
- ・一部、不要なテキスト”上フランジボルト”を表記していたので修正。

<コア仕口組立図>

- ・既製品コアに胴縁ピースが付く場合の上側の寸法の押さえ位置がコア上端にならない不具合。

<梁詳細図>

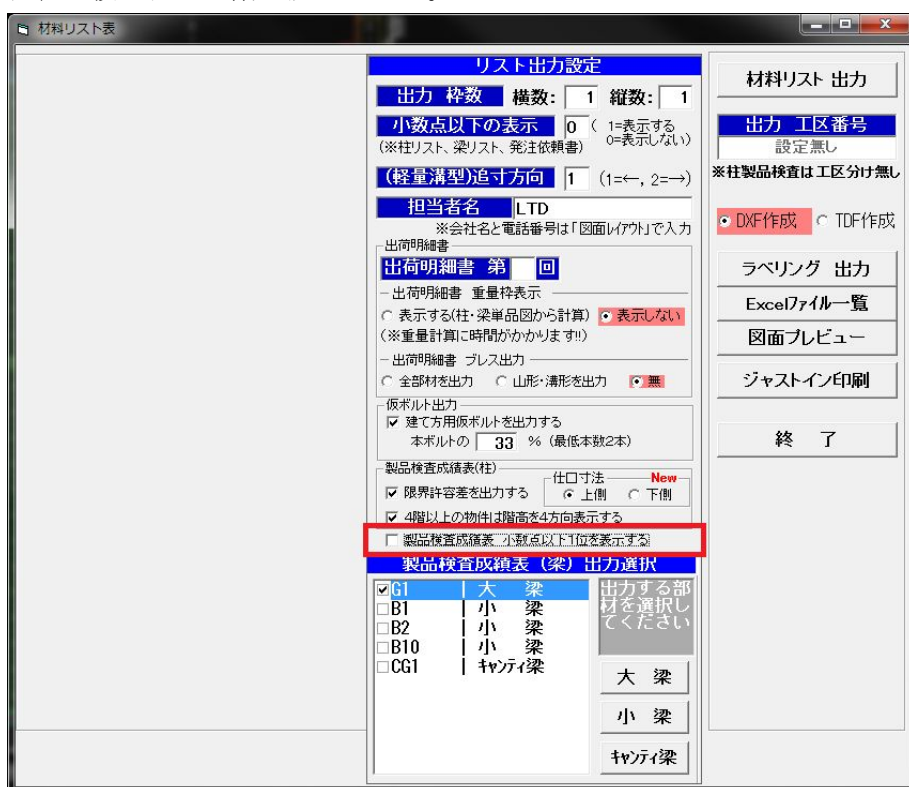
- ・斜め通りの折板が正常にでない不具合。
- ・クレーンガーター梁の断面図のガセット（リブ）がずれる不具合の修正。
- ・斜め梁の詳細図で、通り名が一部逆に出る不具合。

<折板受け>

- ・最上階以外で既製品コアの柱の上に乗る不具合。
- ・既製品コアを使用した場合は柱の上を通さないよう修正。

<材料リスト>

- ・軽量加工表：天吊が左側が転んだ梁に付く場合に穴寸法が正しく出ない不具合。
- ・柱リスト：NDコアの斜め切り寸法に小数点以下の数値があるとリストに出力しない不具合の修正。
- ・柱製品検査表：4階の設定を追加。

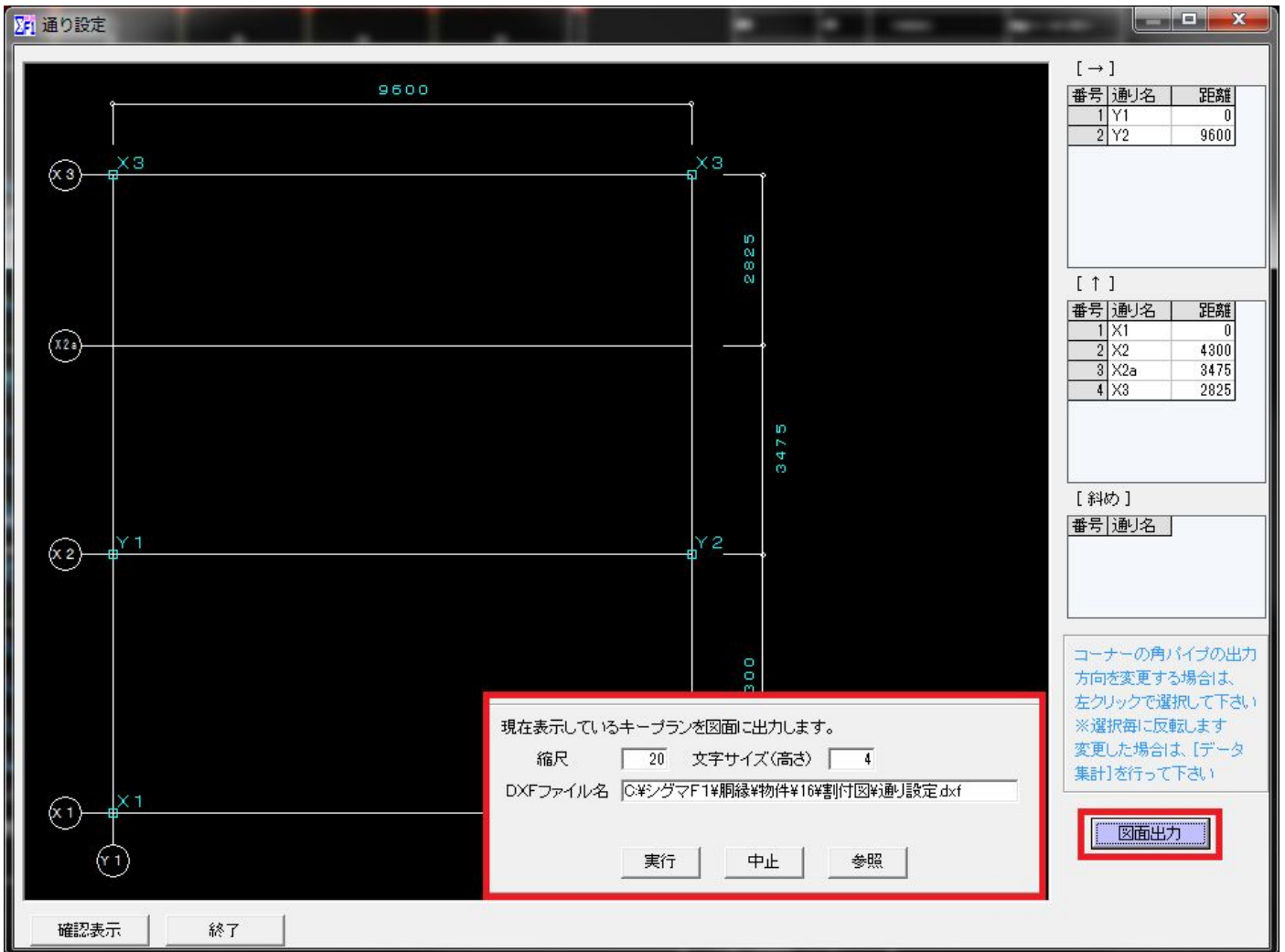


<積算変換>

- ・クレーンゲーターのフランジの中ボルトがHTBになる不具合。
- ・NC ベース P の材質の修正。
- ・一部、長さ 0 の PL が変換される不具合。
- ・仕口長の計算の不具合。(回転の無い柱につく異型ダイアでない斜め梁のブラケット長の計算)
- ・軸ブレス、十字ジョイントのボルト数の修正。
- ・角パイプのスプライスに溶接パターンをセットしないよう修正。

1. 図面読込 キープランの DXF 出力対応

<図面読込> - <通り設定> - <確認表示> - 「図面出力」にて行なえます。



2. 分割連結 分割時も取合優先を選択できるよう対応

<胴縁編集> - <分割連結> - <分割> - 「取合優先」のチェックボックスを追加しました。

例)T時に胴縁が交わる箇所では横胴縁を分割する

- 取合優先：横胴縁同士が取り合い、縦胴縁が短くなる
- 取合優先：縦胴縁がかち、縦胴縁の左右に横胴縁が取り合う

3. データ変換 ピース符号選択を無しにできるよう対応

作図の設定 | 線種の条件 | **ピース符号** | その他 |

胴縁ピース 直交	未設定
胴縁ピース 斜め	未設定
胴縁ピース マグサ	未設定
接続ピース 直交	未設定
接続ピース 斜め	未設定
軸組ピース	未設定

4. 抱き合わせ・組物の名称の文字数追加
半角 10 文字まで対応します。

5. ピース自動配置 CC材は刃側に配置

6. 集計表 胴縁に付くマークの数を表示

台番	方向	組物	部材名称	長さ(mm)	数量(台)	本数(本)	重量(kg)	孔数	ピース・フィル	マーク
X3-324	→上		ロ-100×100×2.3	4,305.0	1		29.9	0	0	0
X3-20	→上		ロ	4,305.0	1		29.9	0	0	0
X3-21	→上		ロ	4,245.0	2		59.0	0	0	0
計				17,100.0	4		118.8	0	0	0


7. 胴縁ピースと軸組ピースを色分け表示

<初期設定> - <環境設定> - <画面表示 2> <図面出力 2> で設定できます。

環境設定

基本の色 | 画面表示1 | **画面表示2** | 図面読込 | 図面出力1 | 図面出力2 | フォント | その他1

胴縁システムで配置(認識)した胴縁等を、作図画面に表示する色と線種の設定です
*画面に表示しない場合は、線種「無」を選択します

胴縁ピース		実線
軸組ピース		実線
ホルト		実線
胴縁合番	<input type="text"/>	有
<input type="radio"/> 番号 <input checked="" type="radio"/> 通り名+番号 <input type="radio"/> 工区名+番号		
胴縁クリア寸法	<input type="text"/>	有
ピース符号	<input type="text"/>	有
割付寸法線	<input type="text"/>	有
開口		破線
開口符号	<input type="text"/>	有

読み込んだ図面ファイルを作図画面に表示する設定です
図面ファイルの画面表示 濃い色調 薄い色調

全工事共通の設定です

環境設定

基本の色 | 画面表示1 | 画面表示2 | 図面読込 | 図面出力1 | **図面出力2** | フォント | その他1

胴縁システムで配置(認識)した胴縁等を、割付図に出力する色と線種の設定です
*出力しない場合は、線種「無」を選択します

胴縁ピース	紫	実線
軸組ピース	紫	実線
ホルト	紫	実線
胴縁合番	白	有
ピース符号	紫	有
割付寸法線	白	有
開口	黄	破線
開口符号	黄	無
胴縁クリア寸法	白	有

胴縁・マグサの厚み線(点線で作図します) 有 無

全工事共通の設定です

8. 図面出力 胴縁を工区の色で作図

工区設定をしている場合、＜データ出力＞－＜図面出力＞にて設定ができます。

図面出力

割付図 「胴縁割付図」を作成する 表軸図 裏軸図

読み込んだ図面ファイル(元図)を出力する 出力設定

[C:\%シグマF1%\胴縁%物件%06%割付図%]に保存します

DXFファイル名

「抱き合わせ」の名称を出力する

「抱き合わせ」の胴縁の個別の合番を出力しない

「組物」の胴縁の個別の合番を出力しない

図面枠を出力する

ファイル名

胴縁を工区の色で作図する 参照

組立図 「抱き合わせ」の組立図を作成する

「組物」の組立図を作成する ※コーナー処理は未対応です

[C:\%シグマF1%\胴縁%物件%06%組立図%]に保存します

加工図出力の設定は以下のようになっています。

抱き合わせ・組物を加工図に出力しない …… チェック有り

合番 番号 通り名+番号 工区名+番号

前回の集計日時 2018/06/20 11:22:35

前回の出力日時 2017/01/06 16:04:47

割付図・組立図のレイヤ分け 有 無 ※全工事共通の設定です

実行 プレビュー 終了

9. データ復帰 ピースマスターを工事別で持つよう対応

バージョンアップ後に復帰した工事物件で有効になります。

10. 編集画面右下に通り名の後ろに方向を表示

	胴縁[42] 開口[0] ピース[5]
原点表示:有	通り名:X3 →Y0 表軸図
作成日:17/01/05	座標 3276, -133

11. 不具合の修正

下記の不具合を修正しました。

<ピース編集>

- ・ PL ピースで C 鋼使用をボルト反転している、一括修正を実行すると反転が戻る。
- ・ ピース幅は C の隙間より狭い場合に背側から刃側に移動した時にバックプレートが入る。

<工区マスター>

- ・ 施工図変換時、最大件数 20 から 99 に上限を変更。

<組立図>

- ・ 胴縁芯が通り芯でない場合に（図面読込の胴縁芯が 0 でない）、逆側の通りに配置したピースがずれる不具合。

<集計表>

- ・ ピースにつく C 型鋼の数を表示しない不具合。

<加工図>

- ・ 横胴縁に近い右下がりの斜め胴縁がある場合、その端部に配置した軸組ピースを間違って横胴縁の加工に反映される不具合。

<NC データ出力>

- ・ USB ドライブに無効なドライブ名を入力した時にハードディスクに切替できない不具合。